

平成 29 年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：滝沢市教育委員会

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校は、国道 4 号線の「分かれ」から、岩手山登山口の柳沢を結ぶ高原台地に開拓された地域を学区としている。岩手山の自然の恩恵を受けているとともに、火山活動による災害と無縁とはいえない地域である。

今年度、滝沢市の防災スクールとして推薦されたことから、以下のような事業を展開することで児童生徒の防災への意識を高めることにした。

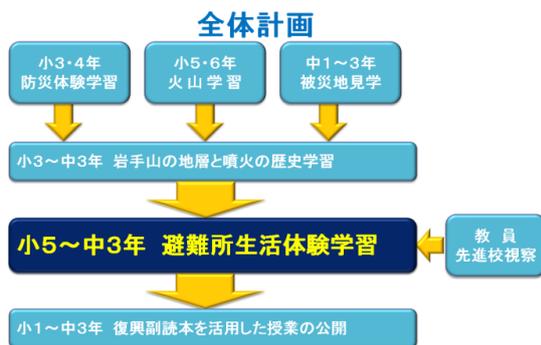
- ①岩手山の噴火に関する講演会及び学習会、防災かるたづくりを通して地域に関連ある自然災害についての学びを深める。
- ②防災体験や下校時避難訓練を実施することで、災害への対処方法を身につけさせる。
- ③被災地見学や避難所生活体験を通して、ボランティア活動等に積極的に参加し、地域の人々の安全確保に寄与できるようにする。

II 取組の概要

1 全体計画

今年度の「いわての復興教育」を下図の全体計画のもと、推進した。

本校の実情から、岩手山の噴火への備えが必要であるという地域性を考え、噴火のメカニズムを学習するための地層学習も取り入れ、各学団の発達段階に応じた学習を進めた。



2 実践

(1) 岩手山の地層と噴火の歴史について

(岩手山柳沢登山口第 1 駐車場露頭の地層見学)

ア ねらい

- ・地域の文化、歴史、産業、自然を知り、自分の生き方について考える。

- ・防災の視点で地域の特色をとらえ、地域で想定される自然災害についての理解を深める。

【児童の感想】

- 岩手山の噴火の歴史について知ることができました。
- スコリアと軽石の違いが分かりました。また、それによる噴火の仕方の違いについてもわかりました。
- 自分の住む場所(身近な場所)に地層があり、噴火の仕方や歴史が分かることを知りました。

(2) 陸前高田市訪問について

ア ねらい

- ・震災後の避難所生活、仮設住宅生活の困難さを学ぶとともに、復興に向けての活動を知り、自分達が復興にどのような関わりができるかを考える機会とする。

【生徒の感想】

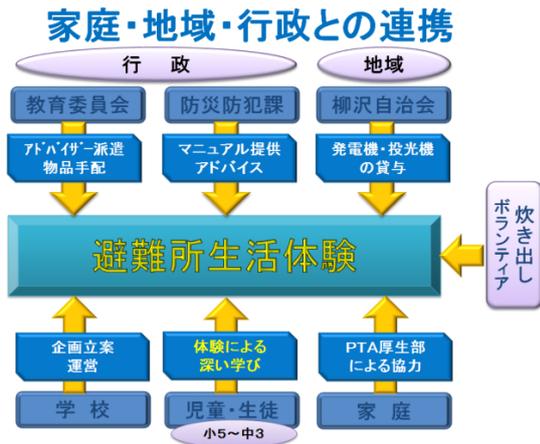
- 大津波は、建物などの目に見えるものだけではなく、心という内面までも奪ってしまうほど大変な出来事だったのだ、と改めて感じました。
- これから、被災地へ向けて自分自身ができることは何だろう。私は、何度も何年も被災地へ足を運ぶことではないかと感じました。何度、募金しても、いくらテレビで見ても、実際に行ってみる他に、被災地の状況を本当に知ったことにはならないと思いました。震災で起こったことを、決して他人事だと思わずに心に刻んでおきたいと思いました。

(3) 避難所生活体験学習について

ア ねらい

- ・一人一人が家族や地域のために働くという役割があることを感じ取らせ、災害発生時には必ず生き残らなければならないという思いをもたせる。
- ・災害発生時には人に迷惑をかけずに、自らの役割について考えるようにさせる。
- ・防災と地域に対する関心と自覚を高める。

イ 連携体制



ウ 活動の流れ

「避難所運営ゲーム」→「避難所設営体験」→
「講演会」→「宿泊体験」

(ア) 避難所運営ゲームについて



【参加者の感想】

○どんどん人があふれてきて、対処するのが難しかった。カードでも難しいのだから、実際にそういうことが起きたら、どれだけ大変なんだと思いました。(中3生徒)

○実際の現場では楽しくできるわけではなく、どこをどうするのかと、パニックになりそうでした。状況を考えながら、配置していくこのゲームは、頭を使い想像しながらやりましたが難しかったです。子ども達が考えながらやっていたので、すごいと思いました。(保護者)

(イ) 避難所設営体験について



【生徒の感想】

○実際に泊まってみると予想以上に暑い、床

も少し固かったので、これを数日続けるだけで腰が痛くなってしまいそうでした。これを数か月続けるのはとても大変なことだと実感することができました。(中2生徒)

Ⅲ 取組の成果と課題

アンケート結果(対象：5・6年児童と中学生)

・地層学習アンケート(5段階評価)

- ①地層学習は、今後のいろいろな学習の役に立つと思うか。4.3
- ②馬返しの地層見学は、興味をもてそうなものであったか。4.3
- ③火山灰の観察は、興味をもてそうなものであったか。4.4
- ④岩手山の噴火の学習は、興味をもてそうなものであったか。4.6

・避難所生活体験アンケート(5段階評価)

- ①避難所生活体験は、今後の生活の役に立つと思うか。4.7
- ②避難所運営ゲームに、興味はもてたか。4.7
- ③実際の避難所運営に、興味はもてたか。4.7
- ④講演会に興味はもてたか。4.8

1 成果

(1) 防災マニュアルに避難所運営計画を追加することができた。このことにより、5者の役割が鮮明になり、連携を図ることができた。特に滝沢市防災防犯課の協力を得られたことにより、実践的な防災学習を推進することができた。

(2) 県の防災アドバイザー事業により、ゲストティーチャーを招聘し、児童生徒とともに教職員も学びを深めることができた。特に岩手山の噴火による災害については、噴火の歴史やメカニズムを知ること、自然災害の性質から対策までを合わせて学ぶことができた。

また、ボランティアに参加された方々の話を聞くことで、防災意識を高めることができた。

(3) 避難所設営体験を行うことで、児童生徒一人一人が自助・共助の在り方について考えを深めることができた。

2 課題

(1) 今年度の実践を今後も継続していくために、計画を吟味すること。

(2) 教科や領域と防災教育の関連に関する研修を行うこと。

(3) 家庭や地域との連携を継続していくための工夫を図ること。